



まつのやま学園視察

つなぐ

教育長 津野庄一郎

遠く十日町の雪里の山あい「まつのやま学園（松之山小・中学校）」があります。全校の児童生徒数は72名。そこで10月10日、**第10回小中一貫「小規模校全国サミット in まつのやま」**が開催され、県内外から教育関係者、地域、保護者を含めて200名余りが参加しました。特に参考になったのは次の3つです。

- 小学校と中学校の9年間の学びを、ホップ期：1～4年生（人間の基礎固め）、ステップ期：5～7年生（思考力育成）、ジャンプ期：8、9年生（社会との関係づくり）に分け、地域と協働して教育を進めている。
- 小・中の縦割り班（チャレンジ班）を編成し、異学年交流を日常的に行っている。
- 地域の自然や文化に根差した学校行事を行っている。（山菜取り、むこ投げ・すみ塗りへの参画、スキー学習など）

「子どもサミット（総合的な学習の時間8・9年生＝中2・中3年）まつのやまタイム」では、「私たちの未来と松之山の未来」をテーマに、地域の強みと課題について発表し、地域がよりよくなるためにどうすればよいかを、京都大原学院や滋賀県の余呉小中学校の生徒達とオンラインを結んで話し合いました。その中で「将来、ヒップホップを渡米して修行し、その後は松之山に戻って農業を続けたい」と自分の考えを堂々と述べる生徒の姿から、主体性を育む9か年教育の確かさを感じました。

現在、関川小学校の児童は156名、関川中学校の生徒は100名で、それぞれで単式学級の少人数で教育が行われています。そうした中で今年度は「関川なないろ保育園」と「関川小学校」とで**5歳児と小学校1年生の保育と教育をつなぐ架け橋期のカリキュラム**を、「関川小学校」と「関川中学校」では、**地域の資源を生かした総合的な学習の時間：ふるさと学習のプログラム**を、それぞれ検討委員会を立ち上げて作成中です。それにより学校園の職員間の子ども理解が進み、指導内容や方法の系統性や連続性が図られ、子どもの学びも豊かになると考えています。

5年後、関川小の児童数は半減することが予測できます。しかし、そのことで力のある教職員の確保や教育の質を落とすわけにはいきません。ふるさと関川を愛する子、主体的に遊び・学ぶ子を育てるために、今後も望ましい教育の在り方を皆さんと共に考えていきたいと思います。

<【写真】まつのやま学園つくし会（児童生徒会）による学園紹介>